

ジオパーク講座「豊浦の海岸でジオパーク！」実施しました



プラスチック製品が多いようです



トラックいっぱいになりました



ホタテの生態についても学びました

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会では、ジオパークの見どころや楽しみを知る機会として、「ジオパーク講座」を開催しています。

11/5(日)のジオパーク講座では、豊浦町の見どころの一つである礼文華の海岸で、清掃活動を行ったあと、漁港でホタテ養殖について学び、大地の特徴と恵みにふれました。

礼文華の文学碑公園周辺は、海岸沿いに巨大な岩が連なる景観美と、海底火山の歴史、そしてこの風景を愛した文学者たちの句碑を楽しめる場所です。

この日の清掃では、海から打ち上げられたと思われるペットボトルやプラスチックケース、発泡スチロール、外国語表記のゴミ等、合わせて約40袋のゴミを拾いました。

その後、漁港まで移動し、豊浦町で行われているホタテの養殖について学びました。ホタテ貝の実物とともに、採卵用の網や耳釣り用のロープ、選別のための機械を見学。ホタテを美味しく、大きく育てるための手間と工夫に、参加者からは感嘆の声が上がっていました。

ジオパーク推進協議会では、今後も様々な角度から、この地域について学べる機会を作っていく予定です。

縄文時代も貴重だった？ 噴火湾のホタテ

噴火湾は、縄文時代の人々にとっても恵み豊かな海でした。比較的波が穏やかなこと、幅広い種類の生物が生きられる、砂地や岩場等の多様な環境がそろっているためです。

高砂貝塚からは、タマキビ、ホタテ、アサリ等が見つかっています。貝類の中でも栄養豊富なホタテやアサリは、貴重な食料だったでしょう。

また、約 2,800 年前の乳児のお墓では、顔を覆うようにして直径 10 cm程の大きなホタテ貝が供えられていました。食料としてのほかにも、大切な意味があったのかもしれませんが。

